

試験研究課題名 (、 、 の場合)

家畜飼養環境改善による生産性の向上と臭気発生の防除に関する試験 (平成8~12年度)

都市型畜産環境保全に関する研究 (平成13~16年度)

豚における尿中窒素排泄量及び糞尿からのアンモニア発生量の低減技術 (日豚会誌 41巻3号)

アミノ酸添加低タンパク質飼料へのミカンジュース粕の配合が豚の発育、背脂肪厚、肉色および窒素排せつ量に及ぼす影響 (日豚会誌 42巻 1号)

対応の内容等

臭気対策は、養豚経営だけでなく本県で畜産を経営するためには必要であると考えます。

「養豚場の施設や管理方法による臭気発生メカニズムと発生臭気の特徴を明らかにする」件ですが、家畜ふん尿処理・利用の手引き (財団法人 畜産環境整備機構) に記載があるように、ふんと尿が接触することにより、ふんのウレアーゼの作用を受けてアンモニアが大量に発生します。また、ふんを嫌気的な条件下に置くことで、低濃度で不快な悪臭が発生することが明らかとなっています。そこで、飼養管理側で出来る臭気対策として、ふん尿分離を徹底したり、清掃の頻度を高めたりすることで、悪臭の発生を抑えることができます。

「豚舎臭気は季節によりその原因が異なる」や「静電気発生による塵埃の吸着」とのご指摘ですが、畜舎衛生の観点から最近では、各豚舎入口へのエアシャワーの導入が進んでおり、衣服等の塵埃の除去にも効果があるものと考えられます。また、塵埃を寄せ付けない工夫や畜舎での塵埃を発生させない飼養管理等の検討は必要と思われますが、当所単独での技術開発は困難と思われるので、今後研究として取り組めるよう共同研究機関を模索したいと考えております。

臭気対策を飼料面から検討する件ですが、当所の研究成果及び他の研究機関でも多数実施されておりますので、情報提供をさせていただきます。

最後に消臭技術の現地調査の件ですが、炭の粉を飼料に添加する事例など現地調査により状況を把握した上で課題化を検討したいと思います。

解決予定年限

1年以内

2~3年以内

4~5年以内

5~10年以内

備考